

子育て世代包括支援センター

妊娠期から子育て期において、市民のさまざまなニーズに対してワンストップの相談支援を提供し、安心して子育てができるよう切れ目のない支援を実施する。

助産師、コンシエルジュ、保健師が担当職員として配備されている。妊娠届の機会を通して全妊婦と面接し、アンケートによって家族、健康、経済面等の事情やニーズを把握する。また、妊娠期から切れ目のない支援として、全妊婦に対して両親学級（年30回開催）への参加勧奨をする。

30年10月に能代市でも、子育て世代包括支援センターを開設したため、先進事例として参考になった。

きらめき市民大学

青年の家としてオープンした建物を利用し、高齢者の増加と市民の生涯学習意欲の高まりを受けて、きらめき市民大学を開校した。

在校生の平均年齢は68歳で、講師には大学教授や専門家、市民講師があり、学生自治活動として学園祭や修学旅行なども行っている。在学期間2年間で受講料は2万円。

授業は各学年週1日実施している。生涯学習がより深化され、世代間や地域間を超えたコミュニケーションづくりにも寄与している。

(落合康友)



産業建設委員会

視察日 10月22日～24日

視察市 兵庫県洲本市、赤穂市
視察項目

- 洲本市
 - ・エネルギーパーク洲本
- 赤穂市
 - ・北前船関連資源
 - ・水道事業
 - ・赤穂観光アクションプログラム

エネルギーパーク洲本

エネルギーパーク洲本は、循環型社会を目指す取り組み「菜の花・ひまわりエコプロジェクト」の再生可能エネルギー関連施設が見学できるように整備されている。「あわじ環境未来島構想」では2050年までに電力・食料の自給率100%を掲げ、「持続する環境の島」淡路島の実現を目指している。

また洲本市は、京都の龍谷大学と連携協定を締結し、「地域再生可能エネルギー活用推進条例」を制定。多くの再生エネ施設が、その整備に当たり中央企業からの出資を受ける結果、地元への恩恵が少ない状況を受け、龍谷大学では、地元金融機関から資金を調達し、非営利株式会社を設立、再生エネ施設の事業主体となっている。電気の売り上げから必要経費を除いた利益は全て地域に還元している。

北前船関連資源

高田屋顕彰館・歴史文化資料館を視察。地元が生んだ江戸時代の豪商、高田屋嘉兵衛の偉業を顕彰し、後世に語り継ぐため平成7年に整備した歴

史文化資料館であるとの説明があった。館内には貴重な資料の陳列とともに嘉兵衛が最初に所有した北前船・辰悦丸の2分の1スケールの復元模型も展示されており、当時がしのべられた。展示物の航路図には我が能代港が載っていた。

水道事業

全国の中で一番安い水道料金と知り、興味を持って伺った視察先であった。料金は1カ月当たり853円であり、全国平均の約4分の1と安く、その理由を伺った。主水源である川の水量が豊富なことと、名水百選にも選ばれるほど良質なため薬剤の注入やメンテナンスなどのコストが低い。また、企業などの大口使用者が収入全体の5割を占めていることも、安価に設定できる理由であると説明があった。

赤穂観光アクションプログラム

赤穂市では地方創生加速化交付金を活用し、プロモーションビデオを作成。赤穂といえば赤穂義士、四十七士であるが、制作ではあえてその思いを排除、外国人を初め多くの観光客へ赤穂の魅力を発信し、旅してみたいと思わせる映像となるよう配慮したとの説明があった。観光振興における課題としては、姫路城への外国人観光客が増加している中、赤穂まで引き込むための情報発信や受け入れ体制の整備が必要であると話していた。

(落合範良)

